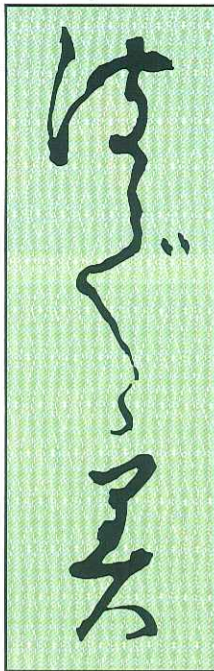


大分県PTA



発行所 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館2F 大分県PTA連合会 ☎(097)556-9055 責任者 富永大輔 印刷所 大分市下郡3154の22 九州出版印刷株式会社



互いの立場超え 進む

理事と母親部との懇談会が平成27年1月29日(木)・ホルトホール大分409会議室で開催された。

昨年度から行われているこの会議は、単独での活動が多い専門部会同士が日頃の悩みや考えを共有できる絶好の機会だ。

はじめに富永大輔県PTA連合会長が「県PTAには、情報収集・行政とのパイプ役・子どもたちの安心、安全を守るという3つの役割がある。今日のこの会は情報収集の場として、色々な意見を聞きながら、自分の引き出しを増やしてほしい。次のステップを考えると、良い材料が見つかるかと思う。昨年からはじめたこの懇談会も今年で2回目。29年度には九P大会も控えている。PTA活動の中心を担う母親の皆さんの協力は不可欠であるので、より良い信頼関係が築ければと思う」とあいさつした。

将来につながる体制づくりを

まず廣瀬母親部長より「各郡市Pから、母親代表として16名が選出されて母親部を構成しているが、輪番制を採用している郡市では、任期が1年限りというところも少なくない。九P大会大会を控えている事を考えると、私たちが母親がもっとつながっていく必要性を強く感じている。各

続いて、廣瀬多賀子県PTA連副会長(母親部長)が「昨年より会長からの呼びかけで始まった懇談会だが、大変活発な意見を、理事・母親部双方からいただくことができた。それぞれの立場で情報交換ができればと思う」と笑顔で話し開会した。



富永会長のあいさつ

地区の状況をお聞きしたい」と、輪番制についての協議があった。理事からは「郡市Pのルールに則っての事なので、すぐに来年度どうするとは言えないが、おっしゃるとおり大分大会に向けての体制作りは必要だと思う。それがどうなるか、母親部とは別の核となる人を残していくことも考える時期ではないか」とまた、別の理事は「総会にかけて輪番制についてルールの見直しを考えているところだ。母親に限らず、やると慣れた所で毎年変わるとなると足踏み状態になる懸念もある。ただし各家庭の事情もあるので、慎重に進めなければと考えている」と答えた。これを受けて、廣瀬母親部長は「輪番制がありまよという意識を改革していくのは厳しいが、1年間だけで次につなげていくのも



なごやかな雰囲気で行われた懇談会

相互協力は信頼関係の上に

困難。もう少し時間があれば、この思いが残る。これからのPTA活動を発展させるためにも女性の力が重要だと思っただけで、ぜひ考えていってほしい」と述べた。

続いて、國実喜久子母親部長より、母親部会についての役割・必要性について、理事へ見解を求めた。ある理事は「私たちの郡市では名称が女性部となっており、なぜ女性部なのか?という議論があった。対して、母親部という名称は母親としての役割や、子どもに近い存在としての捉え方は重要、との考えから、必要性は充分にあると感じる」と述べた。

それに関連して各郡市P母親(女性)部の特色ある活動の報告があった。

●各単Pの女性副会長は全員母親部になつていて、その中から理事を決めて年間7回程部会を開催している。食育や養護教諭との懇談会、市長との懇談会などの場を持っている。宇佐市

●単Pが多いので全てではないが、10地区から代表が出て理事部会を構成。全女性副会長対象の研修会などを開催している。また市Pの各専門部にも所属する。大分市

●各単Pから2名程度が選出されている。特別支援教育について理解を深める。という市P連の目標があるので、講演会やグループ懇談を行った。夏の研修大会の中で母親部独自の分科会

母親部会とは ①県P連の専門部会に属し、16郡市P連からの代表である母親代表員で構成しPTA活動に取り組む。 ②母親独自の目線で家庭教育問題に取り組み。また、個人としての向上を目指し研修会の開催・参加など積極的に活動している。

一年を振り返って



副会長・母親部長 廣瀬 多賀子

母親部会は、16郡市PTA連合会より選出された母親代表により構成されています。食育や家庭教育・学校教育など、子どもに関する問題は数多くあります。それぞれの悩みや問題点を共有することにより、各連合会の活動に活かすことができている。会議では、白熱した議論が交わされ、時間が足りなくなることもしばしばありました。とても前向きな母親部員の方々に感謝しています。母親が笑っている子どもも笑う。辛いことも「ラッキー」を合言葉に乗り越え、これからは子どもと同じ目線で物事を考え活動していく母親部でありたいと思います。

その他、学校教育部会・家庭教育部会それぞれの活動や役割の再確認。会長・副会長としての学校とのかわり等活発な意見・情報交換が行われ、議論が続き中、理事・母親部の相互協力を確認した。

第38回 大分県PTA 広報紙コンクール

1年間の成果をお待ちしています

締切 平成27年3月20日(金) 審査日 平成27年4月2日(木) 表彰式 平成27年4月15日(水)

※応募対象※ 県下の小・中・特別支援学校PTAで3回以上定期発行した広報紙。(号外を除く) <平成26年4月から平成27年3月発行分> 審査部門は小学校と中学校の2部門とする。 「第38回大分県PTA広報紙コンクール 出品についてのお願い」は各郡市PTA連合会事務局を通し単位PTAに送付しています。

研心北

▲卒業の時がきた。6年間や3年間に出来た友との別れは悲喜交々、笑顔と涙顔になる時もある。そして不忘の思い出と記念品を学び舎に残して巣立つ。いい慣習と思う。が目に見えない記念品という置き土産もある▲旧暦13日夕。私は大分空港発階で日本文壇大チアリーディングの団に出会った。一団は、三三五五立話をしていたが、ふと目を向けると整然と着席して淡笑している。この種の集団に時々見かける騒つきがない。女子はポニーテール、男子は短髪。将に心身一如の姿である。機内でも私のすぐ後席に陣取ったが、降りるまで全く静かなものだった▲降り際に、応援の気が湧き、傍の学生に話しかけると「勿論、連続優勝です!!」と力強い決意が返ってきた。代々木体育館に行きたいと思ったが日程不調整で15日の新聞を待った。「61チーム中、準決勝を2位通過し、決勝で完璧な演技をしたが、あと一歩及ばず2年連続9回目の栄冠を逃した」(大分合同紙)▲常勝のNBUBレープスには準優勝は本意の筈。「2位じゃダメなのです」よね?。「2位は敗者だ」という厳しいキャッチコピーもあるよ。レープスの卒業生は後輩に「優勝あるのみ」という記念心というか、厳しい目には見えない努力目標を残して卒業した▲優勝のためにはチームを構成する個々人の克己心あるのみ。上段の華麗なパフォーマンスは下段の地味ではあるけど堅固な土台の上にあつてこそ花開く▲人生における大きな喜びは、君にはできないと世間がいうことをやることである(英国のジャーナリスト、経済学者・パジョット)を贈りたい。

研究大会別府地区 国東・姫島大会

子どもたちの未来



華を添えた子どもたちのダンス

次期開催地の豊後大野市に大会旗が引き継がれた後、国東市出身の竹田津実氏が「真似ることとは学ぶこと」と題し、記念講演を行った。自身の体験を交えた貴重な話に参加者は真剣に耳を傾けた。

第23回大分県PTA研究大会別府地区国東・姫島大会が、1月25日(日)に開催され、県下より関係者約710名が参加。「一人ひとりが輝き、心豊かなたくましい子どもを育てるPTA活動」を研究主題に「国東・姫島発 見つけよう親子の絆 見守ろう子どもの未来」をテーマに「学びあい・認めあい・育てあい」の大会スローガンのもと、くにさき総合文化センター「アストくにさき」をメイン会場に行われた。午前中の全体会に続き午後は各会場に分かれ、活発な討議に沸いた一日となった。

全体会

開会式で富永大輔県PTA連会長が、あいさつに先立ち「PTAの歌にある『平和で住みよい日本を みんなでいっしょにつくろうよ』という歌詞こそが私たちの活動の求めるものではないだろうか。子どもの安心を共に守っていくもののひとつとして、県PTA補償制度の充実、推進に取り組んでいる」と話した。続いて「PTA活動は保護者が主体となり家庭と学校と地域をつなぎ、子どもを中心とした地域教育活動を活性化させる役割を担っている。存在する

「親子がともに育ち家庭の絆を深める家庭教育」をテーマに約300名が参加し討議。松本崇幸国東市立小原小学校PTA会長は「親子の絆を深めるPTA活動」お手伝いの取り組みを通して」と題し発表。「子どもたちが進んでお手伝いするようにすれば、親子の会話やふれあいなどが生まれ絆が深まるであろうと考え、子どもたちはおてつだいがんばり表を活用することで意欲を高めて取り組み、高学年になるにつれ習慣化する子どもが増えた。また各学年ごとの親子でのふれあい活動や、奉仕作業も行った。お手伝いを通して保護者から「待つことの大切さ、励ましや認めめの声かけの重要性を学び、子どものがんばる姿に驚いた」「一緒に仕事をすることでふれあいができ、絆が深まった」など感想が寄せられた」と報告。討議では、今後どのようなお手伝いが子どもたちの意欲

第1分科会 家庭教育 くふうと連携で育む 家族の絆

あるが、親子が絆を深め、良好な親子関係づくりに役立ってきた」と報告した。討議では、スクールガードについての質問や、家庭と学校間のコミュニケーションの取り方などについて、意見が交わされた。

石井圭一郎県教育庁社会教育課主任社会教育主事兼主幹は、小原小学校に対しては「お手伝いは子どもの社会性を育てる。また毎日の積み重ねで大きく変わる。自己肯定感を持たせ、自分の力で伸びていく環境作りが大切」と話した。また、東中津中学校には「三校合同連絡会や人権講演会などは、とても良い活動。幅広く情報交換し、学校、地域、保護者と連携していくことが大事である」と、それぞれに対して指導助言した。

「学力向上体力向上」を目指して、取り組んでいるので、以前よりも本が好きな子どもたちが増えていきます。授業中も先生の声や友だちの声に耳を傾け、熱心にノートをとる子どもたちがたくさんいます。グループや全体の発表も大人顔負けの発表も大人顔負けのプレゼンができる子どもたちが増えました。休み時間は、よく身体を動かし、サッカーや縄跳び、ドッジボール等で楽しく遊んでいます。学校によっては、一校一実践の体力づくりの

がんばる子どもたち

シーンと静まりかえった教室で、無心に本を読む子どもたち。朝の学校風景です。どここの学校でも「学力向上体力向上」を目指して、取り組んでいるので、以前よりも本が好きな子どもたちが増えていきます。授業中も先生の声や友だちの声に耳を傾け、熱心にノートをとる子どもたちがたくさんいます。グループや全体の発表も大人顔負けの発表も大人顔負けのプレゼンができる子どもたちが増えました。休み時間は、よく身体を動かし、サッカーや縄跳び、ドッジボール等で楽しく遊んでいます。学校によっては、一校一実践の体力づくりの

「親子がともに育ち家庭の絆を深める家庭教育」をテーマに約300名が参加し討議。松本崇幸国東市立小原小学校PTA会長は「親子の絆を深めるPTA活動」お手伝いの取り組みを通して」と題し発表。「子どもたちが進んでお手伝いするようにすれば、親子の会話やふれあいなどが生まれ絆が深まるであろうと考え、子どもたちはおてつだいがんばり表を活用することで意欲を高めて取り組み、高学年になるにつれ習慣化する子どもが増えた。また各学年ごとの親子でのふれあい活動や、奉仕作業も行った。お手伝いを通して保護者から「待つことの大切さ、励ましや認めめの声かけの重要性を学び、子どものがんばる姿に驚いた」「一緒に仕事をすることでふれあいができ、絆が深まった」など感想が寄せられた」と報告。討議では、今後どのようなお手伝いが子どもたちの意欲

あるが、親子が絆を深め、良好な親子関係づくりに役立ってきた」と報告した。討議では、スクールガードについての質問や、家庭と学校間のコミュニケーションの取り方などについて、意見が交わされた。

石井圭一郎県教育庁社会教育課主任社会教育主事兼主幹は、小原小学校に対しては「お手伝いは子どもの社会性を育てる。また毎日の積み重ねで大きく変わる。自己肯定感を持たせ、自分の力で伸びていく環境作りが大切」と話した。また、東中津中学校には「三校合同連絡会や人権講演会などは、とても良い活動。幅広く情報交換し、学校、地域、保護者と連携していくことが大事である」と、それぞれに対して指導助言した。

「学力向上体力向上」を目指して、取り組んでいるので、以前よりも本が好きな子どもたちが増えていきます。授業中も先生の声や友だちの声に耳を傾け、熱心にノートをとる子どもたちがたくさんいます。グループや全体の発表も大人顔負けの発表も大人顔負けのプレゼンができる子どもたちが増えました。休み時間は、よく身体を動かし、サッカーや縄跳び、ドッジボール等で楽しく遊んでいます。学校によっては、一校一実践の体力づくりの

いふれあい、親子一緒に成長するPTA活動」と題して発表。「かねてより私たちの校区では地域でも学校でも、地区公民館で開催される講演会や勉強会、草の根懇談会に毎年100名を超す保護者が参加するなど、人権教育に積極的に取り組んできました。しかし、なかなか子どもたちは人権問題を自分たちのこととして捉えていないのではと考へ、実態を知るための生活アンケートを実施した。その結果に基づき、生徒、保護者、先生で意見交換会を行った。三度の交換会を経て「南中の心がけ」を作成。子どもと大人ともにルールは必要との結論は出たが、それぞれの立場で異なる意見に折り合いをつけるのは苦労した。今後は追跡アンケートを実施したい」と指導助言した。

第2分科会 人権教育 共通の体験から 心のふれあいを

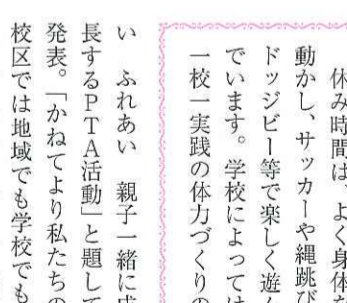
「親子がともに育ち家庭の絆を深める家庭教育」をテーマに約300名が参加し討議。久保利国東市立伊美小学校PTA会長は「心のふれあいをめざした親子体験活動」親子リレー読書の活動を通して」と題し発表。「ノーテレピ・ノーゲームデーや読み聞かせなどこれまで親子・地域

のふれあいや心を育てる活動に取り組んできた。そんな親子リレー読書は新しい取組のひとつ。保護者や先生が人権に関わる本を中心に検討を重ね、一学期に一学年3冊ずつ選書する。学年を3グループに分け、家庭で1冊の本を読み、親子それぞれの感想をカードに記入して次の家庭にリレー。グループ全員が読み

終えると次のグループに渡す。親子がふれあえる時間を持つことができたとの感想は多いが、親子読書の時間を持ちにくい家庭があることも事実であり課題。見直しやふれあいを、更なる充実をめざしていきたい」と報告した。

討議では、他の学校の取組の紹介、質問として選書やリレー方法の詳細や資金調達について、意見交換が行われた。

お互いの立場を 尊重しながら 次に、鶴原信尚大分市立南大分中学校PTA会長は「語りあ



スクールガードの取組を紹介



まなぼ

第23回大分県PTA

つなぐ 育む

第3分科会 広報活動

つなぐ・発信する 広報活動

広報紙にできること

意識改革の要

明確な目標が

意識改革の要

連携で支える

豊かな育ち

志を立て歩む姿

「PTAがわかる・見える・高める広報活動」をテーマに約200名が参加し討議。

矢野伸二佐市長と西條智子広報委員長は「挑戦！PTA活動のスペテを広報紙から発信」

「PTA」と題し発表。「今年度のテーマを『今、PTAを考える』とし、必要に応じてアンケートや座談会を行いPTAについて疑問に思っていることを解決していくこと

で、他会員にも興味を持ってもらえる内容を心がけた。また、取材で多くのPTA活動に参加することで、他会員や先生方ともコミュニケーションを取ることができ、地域と

の連携も深まった。広報紙を通じてPTAにできることを考え情報発信をしていくことで、家庭・学校・地域を繋ぐ



紙面の作り方や、広報紙を通じた地域とのつながりなど、活発な質疑応答が行われた。(第3分科会)

次に、植田良文国東市立武蔵中学校P会長と古川資子広報部長は「PTAを元気にする広報活動のあり方」について「3年間の歩みを通して」と題し発表。「本校PTAには広報部がなかったが、

「昨年総務部に新しく広報担当を設置し広報紙『あいさつ坂』をはじめ発行した。翌年には広報部として独立させ、より積極的に活動を始め、今年度は家庭学習とネットの関係を考えるアンケートや座談会を行い、内容の充実を図っている。このように読み手を引きつける特集などにより、PTA活動への意識も高まり、改めて広報活動の果たす役割の重要性を実感した」と発表。

「質疑では、これからの広報活動の可能性など活発な意見交換がなされた。その後参加者はグループに分かれ、広報紙のあり方などについて意見交換を行った。高橋一成別府市立鶴見小学校校長は「広報紙というのは、PTA活動を活発にする手段。PDCA(Plan Do Check Act)を意識して広報紙作りをしてほしい」と指導助言した。

会場を武蔵町保健福祉センター1つどの館に移し「学ぶ意欲と体験活動の充実を支援するPTA活動」をテーマに約100名が参加し討議。

山崎充由布市立由布川小学校P会長と鄭加代P副会長は「ニコニコ子育て、親育て、組織改革、意識改革でPTA活動の活性化」と題し発表した。「本校は文科省コミュニケーションスクール推進モデル校と大分県目標達成推進モデル校の指定を受け、地域住民との連携を強め、学年・専門部を中心に子どもたちにさまざまな体験活動を提供しているが、これらは平成25年度から始まったばかり。24年度までの活動を見直したところ、事務局を保護者が運営していたことによる負担感の増加、PTA活動への関心の薄さや、大変だという雰囲気、過去の記録が残っていないなど、組織のあり方に限界があると判断したため、学校の協

力を得ながらPTA運営全体を改革した。この2年間で少しずつだが、子どもたちの学びを深め保護者自身も成長できる組織になってきている」と成果を述べた。

「学び」をテーマに討議では、ふるさと学習の支援と生徒との交流について意見交換が行われた。

木村睦男県教育庁義務教育課指導主事は「由布川小学校はポイント制を導入するなど、目的よりも目標を決めることで、活動がより明確になった。改革を進める上で大切な点だと思う。大変意義深い取組。また、緒方中学校のような体験活動を行う際には、子どもたちに「こういう思いをもってほしい」というねらいを決めて行っていただきたい。そうすることで、子どもたちが体験から学んだことを経験化していくことができる」と指導助言した。

心です」といわれ、時を養い、学校では互いに磨き合い光り輝き、地域では人と人との関わりの中で円磨され、強くしなやかに成長するのだと思えます。「人を育てなければ未来はない」「まちづくりの原点は人づくり」これからも保護者として、大人として、そして親として志を立て歩んでいきます。

すべては子ども達の健やかな成長のために。由布市立湯布院中学校 PTA会長 高橋 善孝

業所での職場体験学習を行っている。1年生は、畑仕事を通して「すごい」を体感するふるさと学習を行った。3年生から秋さばきの手ほどきを受けた卒業生からしいたけの駒うちの指導を受けることで「自分たちは大切にされている」と感じたようだ。学校だけではできない部分を支援しPTA活動も小中連携を含め、地域へ働きかけていきたい」と語った。

討議では、ふるさと学習の支援と生徒との交流について意見交換が行われた。

記念講演 (講演要旨)

真似ることは 学ぶこと

獣医師 竹田津 実氏



興味深い話で聴衆をひきつける

野生動物と向き合いながら

誰のものでもない 野生動物

野生動物は無主物。誰のものでもない。捕まえても飼ってもいけない野生動物を診療するという違法行為が繰り返ることをやってきました。

私の森の診療所へは飛べなくなった鳥や事故にあつた

真似ることは 生きること

持ち込まれた鹿の子も鹿の子は、皆が座ると自分も座る。自分にもコーヒーが出てくる

ヌキ、親がいなくなったカモや鹿などが持ち込まれてくる。カモが浮くためには条件がある。一つは母親との会話。会話が多ければ多いほど浮く。なぜなら、会話しながら母親の羽と雛の産毛が触れて静電気をもらっているのだ。もう一つは、お尻のところの脂を毛づくろいのようにして羽に

と思っている。出てこないと思える。自分は人間だと思っているのだ。生物というのは自分の姿を知らない。人間は鏡を見て自分の姿を想像するけれど、野生動物は自分の周りで動いているものを自分の姿だと思ふ。

またある時、保護した子ガモを水に浮かべたら溺れている

は取れないだろう。

たけつ・みのる

1937年、大分県竹田津(現国東市)生まれ。岐阜大学農学部獣医学科卒業。野生動物に憧れ63年、北海道斜里郡小清水町農業共済組合・家畜診療所に獣医師として赴任、91年退職。66年からキタキツネの生態調査をはじめ、72年より野生動物の保護、治療、リハビリに無償で取り組む。映画「キタキツネ物語」の企画・動物監督、テレビの動物番組の監督も手がける。著書には「子ぎつねヘレンのこしたも」偕成社(映画「子ぎつねヘレン」の原作)、写真集「野生からの伝言」集英社、「タヌキのひとり」新潮社、など多数。



国の子供の未来のたけつは、若者達を育てる松蔭、それを支える家族として、師の志に奮い立ち未来へと駆け抜ける若者達。大河ドラマ「花燃ゆ」おもしろいですね。

ある知人の話です。そのお父さんは、仕事も忙しく家族との関係も忙しくPTA活動にも時間がないと悩んでいました。その時ある人から「家族の情や絆を深めるには共に過ごす時間も大事だ」とい

志を立て歩む姿

親心です。子ども達は、家庭で心

志を立て歩む姿

よりよい教育環境のために

— 平成26年度 教育問題懇談会 —

平成26年11月5日(水)、大分県庁内で今年度も各郡市P連から出された教育に関わるあらゆる課題や要望を示し、子どもたちの明るい未来に向けた教育のあり方や教育環境の充実などについて、県教委と県P連の代表者による熱心な意見交換会が開催された。会には、県教委からは野中信孝教育長をはじめ関係各課より18名、県P連から富永大輔会長他副会長・理事ら24名が出席した。

今年度も討議の柱を3つにまとめ、これらの柱を中心に要望や意見の交換を行い、お互いの理解を深めた。
(以下、内容を抜粋して掲載)

① 充実した教育の保障

大分県では30人学級を小1・2の学習・生活習慣の定着と中1の不登校等の防止のため導入しているが、大分県を学校規模で見ると百人以下の学校が小学校で45%、中学校で38%で自然と30人学級ができていく実態である。教員一人当たりの児童生徒数は、全国的にみても恵まれており、現時点では他の学年に比べていくことは考えていない。

複式学級については、小1と中学校では作らない。また、国の基準の16人ではなく14人以下とし、今後も現状を維持していく。人数がずっと下がれば個人的な塾になり、少数の指導技術が曖昧になる。複式のある小規模校でも高い学力を維持している学校があり、その教育実践を広げたい。

② 児童生徒の学力の向上

全国学力学習状況調査は、単に知識を詰め込む勉強でなく、知識を生活の中で活用できる学習になっているかの調査であり、平成19年の開始当初は小学校44位、中学校32位であった。今年度は小学校で九州トップ、中学校も上位に



共通理解を深める場

位置し、生活レベルの授業を含めた授業改善がなされ学校が変わってきている。公表については、学校の序列化ではなく、よい取組をしている事例を公表し、県下全体で共通理解し、それぞれの学校の子どものため、授業改善を進めてもらうのがねらいである。

学力調査の結果による課題を受け止めるのは、子どもや親ではなく、教師や学校、教育委員会である。

教職員の資質向上については、平成23年に人材育成方針を策定した。これから数年間で教員の大量退職に伴い大量採用となる。採用後、いかに資質向上を図っていくかにかかっている。今年度、県の教育センターをリニューアルし、個別な課題に実践的な研修で



意見を述べる理事

取り組ませ、学校現場に戻すOJTの仕組みを考えている。

③ 子どもの教育環境

ネットトラブルやネットによるいじめ・誹謗中傷等も児童生徒の生活環境の中に徐々に入り込んできている。

大分県では、県警のサイバー犯罪対策室やハイパーネットワーク研究所などの関連機関と連携して、問題解決にあたっている。

また教育財務課では、教育のICT化を進めている立場なので、ハイパー研に委託して中学校や高等学校での出前授業を行っている。便利なものであり、危険を知り、生徒自身が自ら話し合い、どのような使い方がよいのかを学ぶことが、今後は必要だと考えている。

・その他

道徳教育の活性化については、学力向上に取り組みむとともに、知徳体のバランスが絶対必要であり、豊かな心の育成にもしっかりと力を入れていきたい。

土曜日授業については、県内で約67%の学校が何らかの形で取り組んでいる。補充学習や教養を付ける学習、体験活動などであるが、それぞれの諸事情があるので取組実施については、各市町村に任せている。

一年を振り返って



大分県P連 副会長
家庭教育部長
正田 啓二

1年間ありがとうございました。各郡市P連の役員、理事、事務局の皆様にお世話になりました。

家庭教育部会は今年度、「保護者心得六箇条」「県P補償制度」の普及、促進を主に活動致しました。

県P指定研では、県内3校のすばらしい取組とおもてな



大分県P連 副会長
学校教育部長
太田 宗一郎

今年の学校教育部会の主な行事は、全県下一円のPTA会長を集めた「単位PTA会長会」と県教委の幹部の皆様との「教育問題懇談会」を実施しました。その中で、単P会長会では会長向けの様々な講習会や今年度は新たにインターネットによる子どもの被害状況と対応策を聞きPTA会長

しに共感致しました。今年度もいたたまれない事件・事故で保護者として考えさせられる事が数多くありました。子どもたちの安全、安心に今後も皆様のご協力をお願い致します。

みんなで頑張りましょう。子どもの笑顔を見るために!! みんなが笑顔になるために!!

としての問題解決の糸口を学習しました。また、教育問題懇談会では各郡市P連より上がってきた様々な問題事項を県教委の皆様と懇談し、学校現場の問題を聞いて頂くことが出来ました。今後は大分県下の子どもたちがより良い教育環境で学べるよう部会として研鑽していきたいと思います。

紙面の都合により「二村一報」はお休みします。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

GK

www.ms-ins.com

(取扱代理店 共同募集)

はぐく美保険サービス株式会社
大分市大字下郡 496-38 大分県教育会館2F

0120-56-8993
(受付時間: 月~金 9:00~17:00)

はぐく美保険サービスはPTA活動と会員の安心・安全をサポートします

MS大分株式会社
〒870-0039 大分市中春日町6番5号
TEL 097-578-6644

子どものために大きな補償を さまざまな危険にしっかり備えます!

平成27年度「学生・子ども総合保険」の募集が始まりました
(PTA育英補償制度・PTA自転車安全補償制度)

お申込め切
平成27年
3月31日(火)

補償期間 H27年4月1日~H28年4月1日

《保険の種類と保険料》

- PTA育英補償
 - Aコース: 5,250円(1人目)
 - Bコース: 3,870円(2人目から)
- PTA自転車安全補償
 - Cコース: 1,150円(1人目)
 - Dコース: 540円(2人目から)

同一世帯で複数のお子様が入会する場合や両方の保険に入会する場合などでお選びいただくコース(保険料)が変わります。コースの選び方などで迷われた方は、はぐく美保険サービス欄までお問い合わせください。(保存版パンフレット6ページでもご確認ください。)

みんながながえるコーナー

反抗期 どう扱したらいいの? ③⑤

反抗期 意地張りたいし腹減るし(日立 小雪)

人質事件の重大さが紙面中に幅を利かせ、憤りや不安を高ぶらせる記事の脇に控えた川柳の投稿作品集の一句に惹かれた。

こんな子どもではなかったのにと、思い返してみれば、いつの間にか反抗期。三つ並んだ言葉から、それを包み込もうとする作者の思いが伝わってくる。駄文を書いている身の自分にも遠い昔、親の強権的な発言に反発した結果、「腹減らし」状態に陥ったことがある。「今日の夕食は、寿司屋だ」と、親父の一言。その訳も受け付けてもらえそうになかった。

「ゆれる心」は、どこに?

「意地張り」の心を解そうと、途惑いながらも解そうとがいている「ゆれる心」。ゆれ動き続けることから生まれる変化、そこから新たな自分が見えてくるのでは。みんなで考えるコーナー室長 岩尾 淳一

おことわり
紙面の都合により「二村一報」はお休みします。

編集後記
九州大会の切符が彼らの手からこぼれ落ちる。涙を拭いた目に春への決意が宿っていた。玄関先の紅梅が一つ二つとひらく。時間の経過を目にする。別れ、そして新たな出会い。春はもうすぐ。

▼走る事が大好きな娘だが、体調を崩したまま競歩大会に挑んだ。辛そうに走る。それでも完走した娘に、心から拍手。

▼負傷の多い2年間、好きだからこそ頑張れた部活。その経験はいつかきっと役立つよ。いろんな気持ちがありがう。